

合理的配慮の提供事例報告書【就学前】

事例の概要

平成31年度 A市立B小学校に就学予定のC児
自閉症スペクトラムの診断あり
初めての環境(対人)に対して緊張・不安感の高まりが強い特性があり、11月にB小学校の校長及び特別支援教育コーディネーターが園での様子を観察した。その際、現在、在籍している認定こども園の先生よりC児の特性や課題等について聴取した。
12月には、C児の母親が来校され、B小学校の特別支援教育コーディネーターと懇談する機会を持ち、B小学校の特別支援学級の体制等について情報提供を行った。
平成31年2月には、C児の両親が来校される予定であり、B小学校の特別支援学級担任と懇談の上、授業内容や教育課程について説明を行う。特に、自立活動の区分と項目についての詳細を伝えると共に、保護者の意向を確認する予定にしている。3月末には、C児がB小学校に来校する予定であり、学校の雰囲気を知ること及び、教室の場所等の確認を行う。さらには、4月の入学式に向けて、前日にC児及び保護者に来校いただき、入学式練習を行う。

1 対象児童の障害種

自閉症

2 障害の程度

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

幼稚園

4 学年

年長

5 対象児童の実態

平成31年度 A市立B小学校に就学予定のC児、現在は市内の認定こども園に在園している。
自閉症スペクトラムの診断がある。新版K式発達検査では全領域DQ98であった。
集団生活を送る上でのルールは概ね守ることができる。
自己の感情のコントロールについては困難さを示す。
初めての場所、人に対しての緊張は高く、固まってしまうことが多い。
新しい環境などにおいて不適応症状が出ることもある。
参観日などでは、母から離れにくくなる状況になったこともある。

6 対象児童についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

C児の保護者は特性への理解があり、在園している認定こども園にも自閉症である旨を伝えられていた。
本年度の教育支援委員会の教育相談会に保護者が参加され、環境が変わると不適応症状が出ること、特別支援学級を視野に入れているが、C児への説明が難しい点などが不安である旨を申し出られた。
C児の心理的な安定を図るために、B小学校の特別支援教育コーディネーターから、事前の面談や本人の事前登校等について提案した。
面談等の中で、特別支援学級の教育課程、時間割、学習内容、学校の様子を知り、慣れるための配慮について説明を行うことで、特別支援学級での学びについて合意形成を行うに至った。

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置

B小学校については、通級指導の拠点校として、通級指導担当教員が配置されている。通級指導担当教員については、特別支援教育コーディネーターを兼ねており、専門的知識から、保護者への助言などを行うことができる。また、特別支援学級も複数あり、特別支援学級の担任も配置されている。当該種別で悩みを持つ保護者等の相談ニーズに寄り添い、専門的知識から助言することができる体制を構築することができている。

基礎① ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用

A市の教育支援委員会には、特別支援学校教育相談担当者や通級指導担当教員など、専門性の高い教員が所属している。保護者の了解のある条件の下で、必要に応じて学校と連携し、教育相談の場のみには留まらない支援をできるネットワークを構築することができている。

今回の件についても、保護者の理解ある中で、A市教育支援委員会との連携により、学校へのコーディネートを行うことができた。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-2-3 心理面・健康面の配慮

自閉症スペクトラムの診断があるC児にとって、自己の感情のコントロールや、初めての場所、人に対する緊張は高く、固まってしまうことが多い。また、新しい環境などにおいて不適応症状が出ることもある。このような特性から、小学校へ就学することはC児にとって、大きな不安につながる事が想定される。A市教育支援委員会の教育相談会で保護者から申し出があり、連携によりB小学校において、事前に相談及び見学の機会を十分に設けることで、C児及び保護者の心理的安定を図った。

合理①-1-2 学習内容の変更・調整

自閉症スペクトラムの診断があるC児にとって、通常の学級のための学びの場は難しいことも予見される。C児に合った適切な学びの場の設定が必要であった。保護者は、C児の特性を教育支援委員会及び学校に申し出られ、特別支援学級への入級を意向として示された。

教育支援委員会の総合的な判断により、特別支援学級の学びの場で小学校生活をスタートする予定となっている。

9 成果と課題

<成果>

学校と保護者との話し合いにより、保護者にとっては納得の上、安心してB小学校への入学に向けて準備を進めることができた。

学校と保護者との話し合いが複数回設定されたことで、学校の雰囲気を知っていただくことから始まり、特別支援学級の仕組みや指導の実際、教育課程の概略まで段階を追って説明する機会を設定することができた。

C児は小学校での学校生活を少しずつ想像するに至っている。

<課題>

現状における特記事項はない。